



## 新市長の所信について



無所属の会 市民の力 ● **松原 栄樹** 議員

**問** 市長の湖南市への想いと理想のまちとは。

**答** 湖南市の魅力は都市化しすぎず、田舎すぎないことでしょう。それは市民にとって住みよいまちへの発展に多様な可能性を秘めています。私たちは同じ時代に生き、皆がひとつになって、心の豊かさを共有できるまち、それを次世代に引き継ぐためのまちづくりをしたいと思っています。

**問** 今後の区・自治会組織とまちづくり協議会との関係について

**答** 今日までの経緯を踏まえ、地域における運営組織の根幹である行政区と地域まちづくり協議会が相互に補完的役割を担うことにより、市民主体のまちづくりが実現できるものと考えます。それぞれの組織の役割を規程により確立することで、持続可能な体制を整えたい。

**問** 子育て・福祉政策についての財源をどのように考えていますか。

**答** 福祉医療の中学生までの無料化で約6,300万円増の1億550万円、妊婦健診・産後健診の金額と回数の拡充で650万円増の4,400万円増の一般財源が必要ですが、財政事情も理解しつつ検討します。

**問** 市役所庁舎そのものをどのような観点から見られていますか。

**答** 市民が快適に利用できる市民サービス提供事業所であるとともに、災害時には市民の安心安全を守る拠点です。今日まで新庁舎の建設ありきで進んで来たので、今一度時間をいただき、再度耐震診断の結果などに対する精査や分析を行いました。

## 所信表明について



湖南市公明党議員団 ● **くわはらだ 美知子** 議員

**中学生以下の医療費を無償化とすることについて**

**答** 中学生以下の医療費を無料化とすることに取り組みます。子どもの通院に対する医療費の助成について、自己負担を伴う形で実施しますと、毎年約1億4800万円の経常経費が必要となります。うち、就学前までの子どもの医療費に対しては県の助成金が2分の1入ってきますので、市の単独費用としては、毎年約1億550万円を要する見込みです。または、自己負担なしでの助成拡大を行いますと、更に数千万円の市の単独費用が毎年経常的に必要となります。

**妊婦検診、産後検診の金額と回数を拡充させることについて**

**答** 妊婦検診、産後検診共に助成回数については、すでに必要回数の助成は実施しており、金額については、妊婦検診は、今年度、助成額を増額したところです。助成金額については、近隣市町の状況などを確認しながら検討していきます。

**現在の新庁舎計画は見合わせ、西庁舎周辺整備も含め再検討することについて**

**答** 西庁舎や石部保健センター、石部文化ホール、石部図書館など、様々な機能を持つ施設が集積していることもあり、優先課題のひとつとして考えています。市民の皆様としっかりと対話させていただき、ご意見を伺いながら検討していきます。